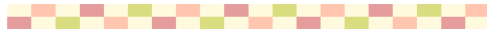


8. 31福井県原子力総合防災訓練（美浜原発事故）
「うみんぴあ大飯」での「スクリーニング・除染」訓練 視察報告

車両の除染は、乾いた紙ウエスでの拭き取りだけ



2019. 9. 14 避難計画を案ずる関西連絡会

◆今回の防災訓練の概要：住民の参加割合 0.4%

- 8月30、31日、美浜原発3号事故を想定した福井県主催の防災訓練が実施されました。地震により外部電源喪失、その後原子炉への全ての注水が不能となり、放射能が流出する事故を想定。



紙ウエスでの除染

- 美浜原発PAZ（5km圏内）、UPZ（30km圏内）の福井県内7市町（越前町、越前市、南越前町、敦賀市、美浜町、若狭町、小浜市）の住民約1000人が避難訓練に参加。これらの区域内には福井県だけで23万人（2013.4時点）の住民がいるので、参加割合は全住民中のわずか0.4%でした。（今回の訓練は福井県主催で、UPZに入る滋賀県と岐阜県は参加していません）
- 31日は、PAZ（約70人）とUPZ（約900人）の一般住民、UPZの病院・社会福祉施設入所者（約20人）の避難訓練が行われました。UPZの一般住民のうち、敦賀市と越前市など嶺北3市町の住民約470人は「スクリーニング場所」の「サンドーム福井」（鯖江市）を経由し、福井市などUPZ外の嶺北4市の避難所へ。一方、美浜町、若狭町、小浜市住民約430人は、「スクリーニング場所」の「うみんぴあ大飯」（おおい町）を経由。その後、美浜町民約230人はおおい町内の避難所へ。若狭町民約90人は兵庫県加西市、小浜市民約100人は兵庫県豊岡市の避難所へそれぞれ移動しました。
- 私たちはこの間、避難先（兵庫県内自治体）、避難元（おおい町・高浜町）への申し入れで、スクリーニングの問題点を指摘してきました。今回の訓練ではスクリーニングがどのように行われるかを確認するために「うみんぴあ大飯」を視察しました。

◆車両の除染は乾いた紙ウエスで拭き取るだけ

- 基本的に国のマニュアルに沿った、簡易なスクリーニングでした。ゲート型モニタで基準値（40,000cpm）を超えた場合、「除染場所」に移動し、サーベイメータで車体側面と前後のタイヤの「確認検査」を行いました。しかし、バスは車体側面の窓より下しか測定せず、窓やそれより上部の屋根等が基準値超の可能性があるにもかかわらず、脚立等を使用しての測定は行いませんでした。基準値超の箇所はあらかじめ右前タイヤのみという想定でした（バスの窓に「右前タイヤ45,000cpm」と書いた紙が掲示されていました）。右前タイヤ以外にも汚染されていることを想定した検査も必要ははずです。

（cpmは1分間の放射線カウント数。現行のスクリーニング基準4万cpm（120Bq/cm²）は、甲状腺被ばく線量で300mSvに相当。「放射線管理区域の外にものを持ち出す基準」の30倍）

- ・除染は乾いた紙ウエス（キッチンペーパーのようなもの。ウェットでもない）での拭き取りだけでした。基準値超の右タイヤのみ紙ウエスでのごく短時間（約1分）の拭き取りだけで基準値未満に下がったという訓練でした。この時、ホイールカバーに付いた砂埃が拭き取れていませんでしたが、担当者は気にしていませんでした。形式的に作業をしているとしか思えません。
- ・福井県職員になぜ紙ウエスなのか、流水除染はしないのか、なぜ車両の汚染がタイヤ付近ばかりなのか尋ねると「除染の方法はいろいろあり、流水だけではない。サンドーム福井では自衛隊による流水で、こちらではウエスで拭く訓練をやっている。ブラシも用意してあるので、実際の事故時にウエスでしかやらないということではない。タイヤの汚染にしてあるのは、公用車ならともかく一般の方の車の拭き取りをして『訓練に参加してここが傷ついた』とかになっても困るので」と答えました。そもそも、ウエスで拭き取るだけの除染は、流水除染と比べてその効果は極めて低いものです。拭き取りだけで、住民の安全や避難先への汚染の拡大を防ぐことはできません。公用車や関電の車両を使って、流水除染の訓練をするべきです。言い訳に過ぎません。



住民の姿が見えないがらんとした会場

- ・私たちの要望を受け、避難先の兵庫県伊丹市等は、ウェットティッシュによる拭き取りしかできないならば美山長谷運動広場（京都府南丹市）を「スクリーニング場所」から変更して欲しい等の要望を、今年2～3月におおい町に出していました。これを受け、同様の問題意識からおおい町は既に福井県に文書を出しています。避難先、避難元市町双方が拭き取り除染の問題を指摘していたにもかかわらず、福井県は拭き取りのみ、しかも紙ウエスでの乾拭きしか行いませんでした。自治体からの要請を踏みにじっています。

◆住民の検査は「車両優先・代表制」。検査結果を住民に渡すこともなし

- ・住民の「スクリーニング・除染」場所は、一方通行にはなっていましたが、集会用テントがあるだけで、戸外で行っているのと同じでした。車両が基準値超の場合に住民のスクリーニングを行いますが、ほとんどのバスや自家用車が基準値以下という想定のため、住民の検査はわずかな人数だけでした。



戸外の集会用テントでの住民の「スクリーニング」

- ・車両から降りた住民は、国のマニュアル通りに、サーベイメータで、頭部、顔面、手、靴底のみの「指定箇所検査」を受けました。測定は1分未満で、それで基準値以内であれば通過可とされました。基準値超のバスは1台のみだったので、ほとんどの住民はこの手抜きスクリーニングすら受けていません。
- ・基準値超のバスでは、代表者がまずスクリーニングを受け、その代表者が基準値超の場合は同乗の住民全員が簡易スクリーニングを受けました。結果、バス避難の住民で基準値超となったのは4名だけで、この4名に対してのみ、「確認検査」を行いました。1分40秒程度で、椅子に座った状態で、手、頭部の前と側面、顔面から胴体、足、靴裏、次に立たせて、体の後ろ側

を頭から足下部にかけて、そして両手を広げさせて腕と胴側面を測定しました。

- ・基準値超となった4名は皆、片方の手の甲のみの汚染というシナリオでした。除染は、各自が汚染のない方の手にゴム手袋をしてウェットティッシュで3、4回拭き取るだけで終了。戸外に除染シャワーテントを設置していましたが、使うこともなく、飾ってあったようなものです。
- ・基準値超の住民がいたバスでも、別のバスへの乗り換えをしませんでした。住民はバスを降り、簡易除染を受けた後、同じバスに戻りました。住民が汚染されていれば当然バス内も汚染されています。車内のスクリーニング・除染がなされていない同じバスに戻れば再度汚染されることになります。
- ・このような状況ですから、ほとんどの住民は検査も受けていません。それにもかかわらず、検査済みとみなされ、通過証を渡されていました。スクリーニング結果の数値が記載された検査票は、住民には渡されません。これでは、後にがんを発症しても、被ばくの影響を証明する手立てもありません。

◆放射線の感受性が高い若い女性職員が戸外で作業

- ・住民への「スクリーニング・除染」は集会用テントを張った戸外で行われていました。この作業にたくさんの若い女性職員を従事させていました。例えば、バス避難の住民の検査・除染場所では要員14名中5名も女性でした。



若い女性職員

- ・車両の「スクリーニング・除染」は関電など電力及び関連会社社員が行いましたが、この作業も若い女性社員が参加していました。

- ・3年前と、昨年の訓練でも若い女性職員を戸外での任務に就かせていました。このため私たちは、国へは3年前より、昨年10月には高浜町とおおい町にやめるよう求めました。これに対し高浜町は「実際の避難時には女性職員は戸外の業務から外したい」、おおい町は「就いていたのは県職では？おおい町は若い女性を戸外任務に就かせなかった」と回答。国も「若い女性職員は外すべき」「関係自治体に改めて周知している」（2016年9月）と答えています。それなのに福井県は今回も全く改善しませんでした。

◆緊張感全く無し

- ・タイベック着用者ゼロ。「スクリーニング・除染」要員は「タイベック着用中」と書いたゼッケンを付け、タイベックを着用したフリをしていました。マスク着用者も見かけず。
- ・「スクリーニング」は「車両優先・代表制」で、避難バスは1台を除き、車両あるいは代表者が基準値未満とのシナリオだったため、バスを降りる住民がほとんどいませんでした。住民の姿がほとんど見えない会場には、手持ち無沙汰の県・町職員、関電など電力関係者だけが目立ち、緊張感は一切ありませんでした。

今回の防災訓練は、これまで以上に住民の安全を軽視した、形式的なものでした。